

計画小委員会 活動報告

計画小委員会

小委員長 西田 幸夫

1. 小委員会の目的

大都市においては、限られた空間の中で高度で効率的な都市活動を営むために、地下空間の計画的な活用が必要である。現在、既存地下空間の老朽化、多発する地震や水害等の自然災害、火災に対する防災や減災等、地下空間に対する要求事項が多岐にわたっており、それらニーズについても十分な整理が必要な状況にある。

本小委員会では、今後のまちづくりにおける地下空間の果たす役割について、事例調査を行うことにより、地下空間ネットワーク形成、リノベーションや防災・減災といった観点と、過去に議論された地下空間の有効利用や地下空間のあり方をもとに、より良い都市の地下空間整備を行うための方策を検討することを目的とした。

2. 研究内容

2.1 テーマ

- (1) 都市のリノベーションにおける地下空間の果たす役割
- (2) 地下空間計画における防災・減災のあり方

2.2 基本方針

■研究テーマ（1）

『都市のリノベーションにおける地下空間の果たす役割』

- ・地下空間の利用は、かつては、公民で厳格な利用区分が有った。また、そのネットワーク化は火災を念頭に厳しく制限を受けていた。しかしながら、都市の再開発や地下鉄網の増強整備の過程において、公道下・鉄道施設・民地下の有機的連絡の有効性が認識され、新たな地下空間の建設や既設の地下空間の改良や拡張が進められている。
- ・近年、国家戦略特区制度を活用した国際競争力の強化・国際的な経済活動の拠点の形成を目的とした再開発等においても、域内交通の処理、鉄道駅との連絡、供給処理施設の設置など地下空間の活用が謳われている。さらには、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みやリニア新幹線の建設など、地下空間の活用の重要性が増すと考えられる。
- ・また、「人口減少・高齢化」など社会経済構造の変化に対応した都市施設のあり方も問われて、コンパクトシティの試みや、バリアフリー、ユニバーサルデザインが順次進められている。さらには「訪日外国人・国際化」対応による案内サインの検討なども急務となっている。

以上を踏まえ、既設地下空間の事例調査を行うことにより、地下空間の有効利用、地下空間の都市におけるインフラとしての位置付け、地下空間の維持管理体制など、その望ましいあり方を再整理することにより、都市のリノベーションにおける地下空間の果たす役割を確認するとともに、その課題を抽出する。

■研究テーマ（２）

『地下空間計画における防災・減災のあり方』

- ・東日本大震災を経験し、防災・減災対策と災害時の空間活用の検討がなされ始めており、他の小委員会と連携し、研究討論会（平成 27 年 9 月土木学会全国大会で実施）やセミナー（防災小委員会主催で実施）を通して、過去の災害事例や現状実施されている対策をもとに、今後想定される災害に対して、地下空間において計画すべき防災、減災対策について提言を行う。

2.3 研究スケジュール（3 か年）

活動内容／年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
研究テーマ（１）			
1) 情報・資料の収集整理	←		→
2) 事例の調査・研究		←	→
3) 課題の抽出, 具体的分析			←
4) まとめ			←
研究テーマ（２）			
1) 情報・資料の収集整理	←		→
2) 課題の抽出, 具体的分析	←		→
3) まとめ			←
小委員会報告書まとめ			
			←

3. 活動経過（平成 28 年 1 月～）

平成 28 年度は研究テーマ（１）を中心に研究を進めた。その調査活動にあたり運営 WG を設け調査チームを編成し、調査を実施した。

（１）小委員会

1 月 13 日	第 4 回；研究テーマ(1)の内容再確認
5 月 17 日	第 5 回；調査先候補の選定とその関連情報の確認。見学会開催提案
7 月 5 日	第 6 回；調査の視点（地下空間施設の法的位置付け）の確認
9 月 27 日	第 7 回；既存調査文献入手報告。調査予算再確認。見学会開催案の検討
10 月 28 日	第 8 回；調査先と担当者選任と調査項目の検討。見学会開催準備。

（２）運営 WG

3 月 7 日	委員長・副委員長・幹事会議により、運営 WG の設置
5 月 9 日	第 1 回；調査先候補の選定とその関連情報の確認。見学会開催検討
6 月 16 日	第 2 回；調査先候補の選定とその関連情報の確認。見学会開催検討
7 月 4 日	第 3 回；調査の視点（地下空間施設の法的位置付け）の確認
7 月 25 日	第 4 回；調査対象先と調査予算について検討

9月12日	第5回；調査対象先関係資料入手と調査予算の見直し．見学会実施確認
9月30日	第6回；調査チーム編成（調査対象と担当者），見学会開催準備

(3) 調査チーム会議

10月21日	第1回；調査担当，調査項目について再検討
11月30日	第2回；調査先へのアンケート作成（共通事項・個別事項）
以降	調査先へのアンケートとヒアリングを順次行う

(4) 見学会

11月22日	東京駅周辺地下空間ネットワーク —地下歩行空間のネットワーク形成の歴史—
--------	---

4. 委員名簿（平成28年12月31日現在）

役職	氏名	所属
委員長	西田 幸夫	埼玉大学
副委員長	松谷 春敏	(株)IHI
委員	伊藤 均	八千代エンジニアリング(株)
委員	大熊 久夫	埼玉大学
委員	大沢 昌玄	日本大学
委員	粕谷 太郎	地下空間利・活用研究所
委員	片桐 広紀	(株)ドーコン
委員	岸井 隆幸	日本大学
委員	工藤 康博	
委員	古賀 大陸	(株)エイト日本技術開発
委員	斎藤 優貴	パシフィックコンサルタンツ(株)
委員	清木 隆文	宇都宮大学
委員	関 繭果	(株)竹中土木
委員	秀島 英三	名古屋工業大学
委員	堀 正和	(株)三菱地所設計
委員	前嶋 剛	東京都都市整備局
委員	松井 直人	三菱地所(株)
委員	松下 潤	中央大学研究開発機構
委員	水口 雅晴	
委員	村田 哲哉	(株)ドーコン
委員	築瀬 範彦	足利工業大学
委員	横塚 雅実	鹿島建設(株)
幹事	荻原 啓太	パシフィックコンサルタンツ(株)